

## ☆ 学級全体への配慮

～ちょっとした振り返りシート～



学級全体への工夫・・・  
何を行えばいいのか悩みますよね。  
現状をチェックした後、できる所から始めましょう。

### < 学びやすい指導の工夫 >

#### 1 聞く姿勢を作る

- 静かになってから話す習慣
- 分かりやすい短い発問
- 一つの指示で一つの活動

#### 2 授業の構成

- 活動の流れを文字や図で視覚化 (あとどのくらいかが分かるように)
- 活動のパターン化 (例: 「聞く」→「見る」→「考える」→「書く」→「発表する」)
- 活動時間を短く (テンポが良い授業)

#### 3 発表・指名のしかた

- 発表の仕方のルール化 (騒いでも指名しない)
- 話し方の手順を決めて提示
- 子どもの言いたいことを察知し、話した内容を繰り返し言葉で説明
- 子どもの発表しようとした姿勢の称賛

#### 4 ノートの指導

- 板書の工夫→文字の大きさ、量、色を意識して書く、写す部分を明確に
- 書きやすいノートを準備 (マス目、横罫)
- ノートの使い方の丁寧な指導 (マス目黒板、実物投影機の活用等)
- ノートの取り方は教科によってパターン化

#### 5 集中して視写する

- 書くときは一斉に視写 (机間巡視、指導が可能になる)
- どこまで書くかの明確化 (子どもに応じて)

#### 6 教材・教具の工夫

- 写真や絵など視覚に訴える教材
- 実際に操作できる教材
- 見やすく書き込みやすいプリントの準備
- 九九表やローマ字表などの支援ツールの準備 (誰でも使えるようにする)
- 実態に応じて、それぞれが使いやすい道具の準備

## < 学習環境の整備 >

### 1 教室環境の整備

- 整理された教室 (備品、掲示物など)
- 学級の物と個人の物の区別化
- 個人の持ち物の整理、管理 (落とし物など) の徹底
- プリント類の保管→ノートに貼る、綴じる (作業時間の確保)

### 2 座席の配慮、学習形態の工夫

- 子どもの特性に応じた座席 (一番前がいいとは限らない)

### 3 学級のルールを決める

- 明確なルール (みんなで共有できるルール)
- 叱る基準を明確化 (なぜ叱られたか分かるように)
- ルールが守られたら必ず称賛
- 守る手本は先生からという意識

### 4 分かりやすい指示

- 具体的で簡潔な指示
- 学習のめあては始めに確認
- 指示の一貫性
- 指示のタイミング (子どもが活動している時は指示をしない)

### 5 見通しをもって生活する

- 予定の視覚化 (1日の予定、学年だより、学級だよりの活用、行事黒板の活用)
- 変更点の確認 (変更点は言葉を添えて丁寧に)

### 6 必要な物を忘れない工夫

- 早めの連絡
- 子どもがメモをとる習慣の育成 (本人が忘れない工夫のために)
- 子どもが忘れた時の対応 (対応できるよう、教師側で準備しておく)

自由メモ欄